



附 越

特別
A5
6673
89
早稲田大学図書館



安永六丁酉



歳旦

永里ちきき籠ヶ嶽乃

世に永目ちい記なるを

祝しく

五儿記

可分

明神 山王様の詞あり

各賀

初〜水の初〜と云々 初子水 嘉善坊

は〜〜初子てア云々 初子水 不乙

大初子や時初〜時の初子 初子水 初子

何〜〜の初子 初子水 乃白

あ〜〜の初子 初子水 乃白

永〜〜の初子 初子水 松甫

を初〜〜の初子 初子水 松甫

ま〜〜の初子 初子水 初子

初〜〜の初子 初子水 初子

初〜〜の初子 初子水 初子

大初〜〜の初子 初子水 初子

えりやゝふらふらふその風情 三 五中

文通

まじきあやうなれはきりせのかう 甲九
一ふりやうなれはきりせのかう 乙一
そのうらよきをきりせのかう 丙二
ゆきやうなれはきりせのかう 丁三
とれはきりせのかう 戊四
とれはきりせのかう 己五
とれはきりせのかう 庚六
とれはきりせのかう 辛七
とれはきりせのかう 壬八
とれはきりせのかう 癸九

申す事 文通

柳

二年の月と日のあふりし

晴しうねる風の 度は 吉

屋のお子やんのおふりし

いさよふらふそのあひかり

度紙の尻りめき度 旅先所 和考

物小秋のぬきあひし

まろくくまろくあひし 月影の 吉

度紙の尻りめき度 旅先所 和考

かーかり人あふりし

山と川とのあふりし

かき川ふきし 軍法のむしり

まきれとやまふらふ

石和 柳

九盆小吾魚の口毒のそと川と 呂井
涼しは目のかよふ燈し大 嵐二
田島は折々の 土の吹動 む笑
おまひきつての 縁 糸文 女持
真まうとく 海をむおして 儿中
酒と糸と折々の 飛 証書

糸持橋治力

